

公述 番号	公述人の意見の概要	都市計画決定権者の見解
1	<p>○景観について 環境影響評価準備書は、駅の東側からのイメージ画像しか掲載されていないため、西側の住民の方や店舗を運営されている方は、具体的に景観がどう変化するかが分からない。西側からのイメージ画像も掲載すべきである。</p> <p>○大気質について 工事の実施及び車両の走行に伴い発生するホコリ等（粉じん）が、洗濯物に付着するなどの阻害が起きるのではないかと不安である。環境影響評価により予測・評価して基準値に収まっているとして締めるのではなく、工事が進行していく中で起こるであろう問題に対して、住民からの意見を随時拾い上げて、安心して生活できる環境を確保してほしい。</p>	<p>○景観について 環境影響評価において東側からの視点で予測を行った駅のうち、五月が丘1駅については、西側の用地買収を行うこととしており、建設後の利用形態が不明であり予測評価が困難なため、東側からの視点において景観を予測しています。また、己斐上駅及び己斐中駅については、歩行者や車等の往来が多い県道伴広島線（東側）からの視点において景観を予測しています。</p> <p>○大気質について 工事に伴い発生する粉塵について、事業計画地は過去の気象データから粉塵が飛散しにくい気象条件であることから、影響は小さいと考えています。また、工事中の環境保全措置として、必要に応じて、仮囲いの設置や散水を行い、粉塵の発生・飛散防止に努めます。</p>
2	<p>○騒音について 工事区間内には、交通量が多く、小学校や老人ホーム等の施設もあるため、特に配慮が必要である。</p> <p>○日照阻害について アストラムラインの存在により日当たりが悪くなる。</p> <p>○地盤沈下について 高連5号線二葉山トンネル工事や福島町の陥没事故を踏まえると、杭工事等により地盤沈下が起きる不安が残る。</p>	<p>○騒音について 工事の実施及びアストラムライン供用後の騒音の予測結果は、いずれも規制基準等を下回っていることから影響は小さいと考えています。また、環境保全措置として、工事区域の周辺への万能扉設置や最新の公害防止技術・工法等の採用、アストラムライン供用後においては走行路面の適切な保守作業の実施などにより、騒音の低減に努めます。なお、アストラムラインの走行に伴う騒音については、事後調査を行い、環境影響の程度を確認することとしています。</p> <p>○日照阻害について 周辺への日照阻害の影響を低減するために高さを極力抑えた構造としています。また、鋼製橋脚・鋼製桁を多く採用することで、コンクリート製を採用するよりも橋脚をスリムにするともに、橋脚散の低減に努めます。 なお、アストラムラインが建設されることによる日照への影響については、日陰ができる範囲を予測しており、その範囲内において日陰時間が国の通知等に掲げられている時間を超える住宅等については、国の通知等を遵守した補償を行います。</p> <p>○地盤沈下について 本事業の実施に当たっては、過去に起きた事例の原因分析の結果を把握し、十分な事前調査を行うとともに、引き続き詳細設計において適切な施工方法や補助工法を検討し、周辺への影響がないように努めます。</p>

○大気質について

工事の実施に伴い発生する粉じんの予測数値は問題ないのか。「必要に応じて散水等を行う」旨の記載が環境影響評価準備書に記載されているが、広島市は環境影響評価準備書に記載された環境保全措置が守られるよう管理してほしい。

○騒音・振動について

騒音・振動の予測値について、延伸区間は住宅に近接した工事となるが、建設機械から5m離れていれば基準値内となるのか。

○日照阻害について

日照阻害の影響を受ける範囲は、区画整理（西広島駅北口）後の地図で示してほしい。

○動物について

環境影響評価準備書には記載がなかったが、サワガニが生息しているため、自然を壊さないよう工事を進めてほしい。

○水質について

工事区間に、八幡川があるが、工事の泥水により河川を汚染することがないようにしてもらいたい。

○大気質について

予測は国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所が示している手法に基づいているため、精度は高いものと考えています。

また、環境保全措置として、必要に応じて、仮囲いの設置や散水を行うなどの粉塵抑制対策の徹底を行うよう指導監督を行っていきます。

○騒音・振動について

予測は日本音響学会や国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所が示している手法に基づいているため、精度は高いものと考えており、代表的な建設機械及び稼働位置を想定し、事業計画地の敷地境界から5mの位置で稼働した場合の建設機械の稼働に伴う騒音及び振動の予測結果は、ともに規制基準を下回っていることから影響は小さいと考えています。また、環境保全措置として、工事区域の周辺への万能掘設置や最新の公害防止技術・工法等を採用するなど騒音及び振動の低減に努めます。

○日照阻害について

日照阻害の影響を受ける範囲について、西広島駅北口土地区画整理事業を反映した図面を広島市ホームページに公表しています。

○動物について

現地調査において、サワガニは確認されています（環境影響評価準備書 7.10-12）。サワガニは重要な種に指定されていないため、生息に及ぼす影響の程度について予測していませんが、工事に際しては水質に影響を与えないよう工事排水の環境保全措置を適切に実施し、保全に努めます。

○水質について

工事に伴う排水については、法令に基づき排水基準等を踏まえ適切な処理・措置を行った後、基本的に公共下水道へ排水することや、工事の実施に伴い発生する土砂は、原則として速やかに搬出することとし、土砂を仮置きする場合は、シート張りを行う等、降雨時に工事現場から八幡川に土砂が流出しないよう対応することから、八幡川の水質への影響は小さいと考えています。